

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係員

## 復命書

平成 29 年 8 月 17 日

三沢市議会議長 小比類巻正規 殿

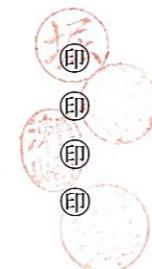
会派みさわ未来

会長 堀 光雄

太田 博之

瀬崎 雅弘

加澤 明



平成 29 年 7 月 17 日から平成 29 年 7 月 19 日まで、福岡県大牟田市及び熊本県熊本市において当会派の行政視察を実施したので、その概要について下記のとおり復命いたします。



## 記

### 視察概要—1【福岡県大牟田市】

- 1、日 時：平成 29 年 7 月 18 日（火）午前 9 時 45 分～午前 11 時 45 分
- 2、場 所：大牟田市役所 議会会議室
- 3、対応者：大牟田市議会事務局 局長 中園 和彦  
同 上 庶務 内田 佳代  
担当者 大牟田市保健福祉部 長寿社会推進課地域支援担当課長兼  
地域包括支援センター長 吉澤 恵美
- 4、視察項目：認知症ケアコミュニティ推進事業について

#### (1)大牟田市の概要

九州の中部に位置し、西は有明海に面している。みやま市高田町（旧三池郡高田町）や熊本県荒尾市、玉名郡南関町、同郡長洲町を含む独立した都市圏（大牟田都市圏）を形成している。

現在、福岡県の自治体では 5 番目に人口が多いく保健所政令市の一つである。

かつては三井三池炭鉱の石炭資源を背景とした石炭化学工業で栄え、1959 年（昭和 34 年）には最大人口 208,887 人を誇ったが、エネルギー革命などにより石炭化学工業は衰退。同炭鉱が 1997 年（平成 9 年）3 月に閉山してからは、廃棄物 固形燃料（RDF）発電施設を中心とした環境リサイクル産業などの新興産業（エコタウン）や、立地条件を生かした大牟田テクノパーク（工業団地）への企業 誘致などに力を入れている。

現在の市の公式キャッチフレーズは『やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた』。以前は『九州をつなぐ多機能都市・おおむた』であった。

2007 年フォーブス誌「世界の最もきれいな都市トップ 25 位」に選定された。ちなみに 1 位はカルガリーで、アジアでは大牟田を含む日本の 3 都市（勝山 9 位、神戸 25 位）が選ばれている。毎年 7 月下旬に行われる大牟田夏まつり「大蛇山」には、毎年 40 万人ほどが訪れるという。

2015 年 7 月に三池炭鉱 宮原坑・三池炭鉱 専用鉄道敷跡・三池港が明治日本の 産業革命遺産として世界遺産に登録された。

## (2)認知症になっても安心して暮らせるまち

認知症の人とともに暮らすまちづくりの原点は、平成13年11月より大牟田市認知症ケア研究会の発足時から「いつでも、どこにいても、誰といても自分らしく、幸福に暮らして欲しい」という願いからであり、自分の家や施設だけ良くてもだめ！ということ。

認知症ケア研究会の基本理念等は以下のとおり。

### 【基本理念】

認知症の人が、ひとりの個人として尊重され、その人らしく地域で暮らせるよう、

- ・ノーマリゼーションの視点
- ・人権の尊重
- ・人生の継続性、QOLの向上

をキーワードに、地域で支える仕組みづくり、サービスの向上を図っていく

- ・構成メンバー：市内介護事業所に勤務する職員（専門員）9名の運営委員からスタート（平成26年10月1日現在：運営委員32名、会員224名）
- ・事務局：大牟田市保健福祉部 長寿社会推進課

## (3)認知症ケア研究会から『地域認知症ケアコミュニティ推進事業』へ

平成13年11月より大牟田市認知症ケア研究会の発足を受け平成14年度から認知症の人への理解が深まり、地域全体で支える仕組みをつくり、認知症になっても誰もが住み慣れた家や地域で、安心して豊かに暮らせ続けることのできる“まちづくり”を目指し『地域認知症ケアコミュニティ推進事業』が事業化される。

認知症ケア研究会（事業所）と行政のパートナシップをスタートさせ、当事者や家族、介護現場の実態から見えた問題提起を重ねることから、その問題点を吸い上げ地域全体の実践課題にデザインアップしている。

また、この事業は大牟田市介護サービス事業者協議会へ事業委託し認知症ケア研究会が主管。他職種協働、多世代・地域協働の場や機会を設けるとともにスタイルの創造へと展開している。

さらに、介護保険事業計画や地域福祉計画に成果と実践課題を反映させながら、認知症をきっかけに、子供も障害を抱える人も、高齢者も全ての人が支えあえる“まちづくり”的な施策として地域福祉の再構築並びに新しいコミュニティの創造に寄与している。

#### (4)大牟田市ほっと・安心ネットワーク事業

平成 22 年度から徘徊がノーではなく、安心して徘徊できる町へ！

大牟田市地区高齢者等 SOS ネットワークが大牟田市と大牟田警察署と連携することで高齢者の徘徊（行方不明）等に関わる保護を目的に実施され、安心安全メール配信システム「愛情ねっと」を活用し年を追うごとに実績を上げている。

さらには、市内全域で 3,000 人以上の市民参加のもと搜索訓練が実施されている。

#### (5)子供たちと学ぶ認知症「絵本教室」

認知症って？

認知症の人の気持ちって？

一番困っている人は誰？

僕たちにできることはある？

認知症の「人」の理解が深まることを願って子供たちと語り合う大人や地域のために認知症「絵本教室」を開催し、

①高齢者を敬う気持ちを育てる

②障害があつても認知症であつても同じ価値ある尊い存在であるという人間観を育む

③金神の尊厳について学ぶ

④ともに助け合い支え合う地域社会の大切さを学ぶ【子供たちも家族の一員、地域の一員】

⑤認知症について正しく理解する

#### (6)これまでの成果と課題

認知症ケアコミュニティ推進事業を実施してから子供たちをはじめ、地域住民も介護事業所も、行方不明高齢者に声かけを行い、早期に保護することができるようになったと同時に、誰もが他人事ではなく、自分事にとらえて行動することができるようになってきている。

このことは、市が掲げる「誰もが助け合い、支え合う地域づくりの推進」に寄与している。

しかし、一方では

①当事者の行動の自由と個々の安全確保（認知症の理解啓発）

②若年認知症の人の働く場所の確保（役割の創出）

③MCI レベルの方の早期発見・早期支援

④地域での日々の声かけ見守り支援体制の充実（地域体制の構築）

⑤地域住民や介護事業所の人材育成（地域体制の構築）  
以上のことことが現状での課題である。

#### (7) 視察所感

大牟田市の認知症ケアコミュニティ推進事業は、認知症が及ぼす将来の地域コミュニティの実情をいち早く捉え実践していることに感銘を受けた。

また、模擬搜索訓練や子供たちへの認知症「絵本教室」は、子供たちも地域住民の一員であることの自覚や、人間の尊厳を学ぶ素晴らしい事業だと強く感じた。

また、このような事業は当市でも実施が可能であることから、先ずは当市の認知症の実情を改めて再検証し、当市の地域包括ケアの現状も踏まえ、市民の社会福祉の向上に役立てていきたいと考える。

最後に、今回の視察で紹介された認知症「絵本教室」の教材である絵本（いつだって心は生きている～大切なもののを見つけよう～ 発行者：莊村明彦 発行者：中央法規出版株式会社）は、今後の施策に反映することができるよう会派全員が購入（私費）した。

## 視察概要—2【熊本県熊本市】

- 1、日 時：平成 29 年 7 月 19 日（水）午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分
- 2、場 所：熊本市役所 議会会議室
- 3、対応者：熊本市議会事務局 調査課 課長補佐 下錦田 英夫  
担当者：熊本市総務局 改革プロジェクト推進課 課長 村上 和美  
同 上 主幹 池田 哲也
- 4、視察項目：熊本市役所改革について  
：熊本城の復興状況について

### (1)熊本市の概要

県の総面積の 5.3%にあたる約 390km<sup>2</sup> の市域に、県内人口の約 41.8%にあたる約 74 万人の市民が住む。2012 年（平成 24 年）4 月 1 日に九州で 3 番目の政令指定都市に移行した。九州では、福岡市、北九州市について、3 番目に人口が多い。

肥後国府や肥後国分寺が置かれた地である。現在の市街は、細川氏熊本藩 54 万石の城下町を基礎に発展してきた。戦前は陸軍第 6 師団や国の出先機関が置かれ、九州を代表する軍都・行政都市として栄えた。2011 年（平成 23 年）3 月 12 日、九州新幹線鹿児島ルートが全線開通し、熊本駅に新幹線駅が併設された。

中心部は熊本城天守閣から見て南東から東に広がる。ただし、熊本城などからの眺望を確保するための環境基準により、中心部を含む熊本城周辺地域約 550ha には厳しい高さ制限がある。そのため中心部には高層ビルが存在しないが、当該地域の外にある熊本駅周辺の新都心地区には、くまもと森都心などの高層ビルが立地する。また、中心部を囲むように立地する熊本駅・上熊本駅・新水前寺駅の JR 九州 3 駅が交通結節とされており、中心部との間が熊本市電によってつながれている。

### (2)熊本市『改革プロジェクト』方針について

熊本市は、第 7 次総合計画において、めざすまちの姿に「上質な生活都市」を掲げ、その実現に向け地域主義の基本理念のもと職員が地域に飛び込みながら社会・住民ニーズを把握し、市民とともにまちづくりを進めていくこととしている。

しかし、社会・経済環境は目まぐるしく変化しており、熊本地震により被災した熊本市の取り巻く環境は一層厳しを増している。そこで早期の復旧

復興に加え、人口減少克服、地方創生といった課題に取り組んでいくためには、従来の市民と市役所の関係、議会と市役所との関係などを見直すとともに、市民ニーズの変化を的確に把握し、その変化に迅速かつ効率的に対応できる体質、組織文化へ変わる必要がある。

すなわち、市役所は、地域課題を解決していくため、市民ニーズや質の高い情報といったエビデンスに基づいた「地域経営を推進する組織」に変革するタイミングである。

以上のことから大西市長のマニフェストにも掲げられた“市役所がめざす姿”を追及する市役所改革プロジェクトチームが発足した。

### (3)熊本市『改革プロジェクト』の理念

- ・熊本市がめざすまちの姿  
実現に必要な『政策』→政策を企画立案推進できる『組織』
- ・熊本市がめざす姿への改革  
『質的充実の改革』に向け、
  - ①市民と対話し、本当に必要なことは何かを考え、真に市民が求める付加価値のある質の高いサービスを提供する「市民満足度の高い市役所」の実現
  - ②職員が有機的に活動でき、職員にとって働きやすい職場である「職員満足度の高い市役所」の実現
- 以上を踏まえ、『自ら考え・自ら見直し・自ら行動する市役所』へ
- ・市役所の生産性の向上→市民満足度のUP→上質な生活都市の実現

### (4)熊本市『改革プロジェクト』の取り組む姿勢

- ・幹部職員はもとより全職員が、市民や職員同士の「対話」により、めざすべき姿を理解・納得・共感し、行動に移す。
- ・職員一人ひとりが、明るく・楽しく・プラス思考で、主体的に意識を変える

### (5)熊本市『改革プロジェクト』の取組

平成28年度から市役所の1階フロアの見直しを行っている。この事業はハード並びにソフト面も総合的に見直し、スピード感を持って進めている。

取り分け、市民の立場になって考えた時に、いかに非効率的で不便な体制になっていたことへの気づきに職員が改めて改革の意義を共有できている。

また、平成29年度は、以下の3点を優先しながら幹部職員はもとより全職員が、市民や職員同士の「対話」の場を創出することから、めざすべき姿を理解・納得・共感し、行動することができてきている。

- ・職員の提案（「改革のタネ」）募集
- ・地域担当職員を活かす仕組みづくり
- ・窓口サービスの向上

#### (6)これまでの成果と課題

市職員の意識改革は少しづつは進んでいるが、個々の改革への温度差があり、取り分け局長級の考え方の違いもあり、一体感ある実行がなされていない。

今後は、外部評価や外部からの講師を招き、職員研修の充実を図っていかなければいけない。併せて、市民との「対話」を通じて課題解決の仕組みづくりを早急に確立しなければならない。

何れにしても、市役所改革はの主役は市職員であり、市職員の個々の意識改革とスキルアップはスピード感を持って取り組まなければならない。

#### (7)視察所感

市役所改革は、ハードはもとより市職員の意識改革が必要不可欠であると再認識した。そうした中、当市では市職員が日ごろから市民との「対話」をどれだけ行っているのだろうか。

また、日ごろの市職員の働く姿を我々議員は基本的に見ることは無く、人事評価等も、執行部に丸投げになっていることに気づかされた。

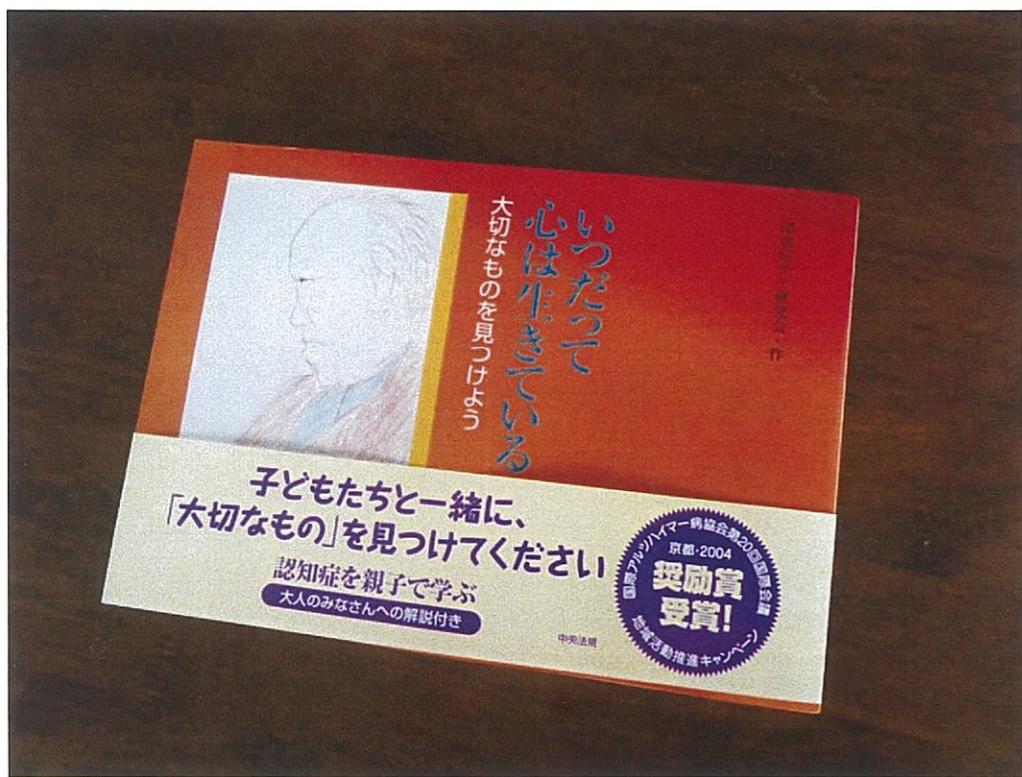
さらには、現在、国においては「働き方改革」が重要施策として実行されている中で、当市の市役所及び職員のめざす姿を議会で討議したことは極めて少ない。

今後は、今回の視察で得た事業の成果を見守りつつ、当市においても市民ニーズの変化を的確に把握し、その変化に迅速かつ効率的に対応できる体質、組織とは何かを議員間討議を通じて方向性を見出していきたいと考える。

最後に、今回の『改革プロジェクト』は、新市長誕生における大西市長のマニフェストの実行であるが、市職員の戸惑いも正直感じるところが多々あった。議員も市職員も、いかなる時も市民の公僕であることを忘れてはいけないと会派で改めて強く意識付けし、責任ある議員活動に精進して参りたい。

【福岡県大牟田市】





【熊本県熊本市】



